

池袋副都心移動システムの事業評価について

1. 評価委員会開催について

豊島区では、東アジア文化都市 2019、オリンピック・パラリンピック開催を見据え、来街者や交通弱者にやさしく環境に配慮した電気バスであり、単なる移動手段ではなく、豊島区の魅力を引き上げる装置として、新たな移動システム「IKEBUS」の運行を開始した。

本事業は、附属機関である選定委員会にて事業者を選定し、豊島区地域公共交通会議にて、乗合運行の協議を行い運行している。

事業の進め方については、当初、毎年評価委員会等を開催し検討していくことを想定していたが、運行開始直後からコロナ禍に入り、利用者数等が当初の想定と大きく異なったことから、開催を見送ってきたところである。

令和元年 11 月の運行開始(11 月 1 日～「貸切運行」、11 月 27 日～「乗合運行」)から 3 年が経過した。コロナ禍ではあるが、3 年間の実績があるため、この度、評価委員会を開催しこれまでの評価を行った。また、この事業全体の評価については、運行協議を行っている本会議において報告を行う。

2. 運行評価について

評価委員会を令和 5 年 1 月 31 日に開催した。

評価では、以下3つのコンセプトに沿い、①利用者数、事業収支、ルート、②知名度、魅力度、協働のまちづくり、③回遊サポート・促進、満足度を用いて達成状況の確認を行った。



3. IKEBUS の事業実績について(評価内容)

評価期間:令和元年度から令和 5 年 12 月 31 日

実績内容:資料 2-2「事業評価シート」のとおり

4. 評価委員会でのご意見について(抜粋)

【指標1:池袋副都心におけるLRT 構想、ルートを見据えた移動システム】

利用者数	○	・ 延べ 26 万人はグリーンスローモビリティとして規模突出 乗合:約 259,000 人 貸切:約 7,800 人(内保育園児約 4,800 人)
事業収支	△	・ 区がイニシャル含め 7 億円超負担だが、広告換算費だけで 6 億 6 千万円の評価。更に数字に出ない成果もあり十分な結果である。 ・ 乗車人数の内訳(一日券・当日券等)や貸切運行・グッズ販売についての収支も併せて検討したほうが良い。 ・ 区内・区外・都外等、利用客の構成比についても詳しく知りたい。 ・ 改善策として、ルートの短縮化、サポーター収益の種類増、貸切運行の増加など、更なる収支改善策の検討を。
ルート	△	・ 池袋の東西を繋ぐことができた。 ・ 定量的意見のほかに直接的な評価もにぎわいを図る指標となるため、アンケートのほか、インバウンド等のニーズに即したルート検討を。

→ グリーンスローモビリティとして、利用者数等の実績は高く、収支率の課題が残るも、広告換算費ほか、数字に出ない成果にも一定の評価。ルートや乗合・貸切の事業バランスや利用者のより詳細な調査等で利便性の向上・収支率の改善が必要。

【指標2:単なる移動手段ではなく、まちの魅力や価値を高める装置】

知名度	○	・ 池袋モンパルナス回遊美術館で小学生が描いた作品はイケバスの絵が最多。
魅力度	◎	・ 保育園児全員がミニ遠足に参加でき、今では豊島区の保育園の卒園の恒例となっている。続けてほしい。イケバスが来ると周囲が明るくなる。 ・ ぜひ豊島区全体で運行して高齢者ももっと乗る機会を増やしてほしい。 ・ アトカルツアーなどもっと増やしてほしい。
協働のまちづくり	○	・ IKEBUS をシンボルとした連携事業が進み効果的な印象。特に、企業連携ができることは公費で運行するメリットとなる為、指標としてよいのでは。

→ 保育園のミニ遠足等、IKEBUS をシンボルと連携事業が高評価。まちの価値を高めるシステムの機能として浸透していると言える。

【指標3:インバウンド等の観光客の回遊をサポート・促進】

回遊サポート・促進	○	・ IKEBUS が運行し、以前と比べて観光地としてのみどころが増えた実感がある。
満足度	△	・ 池袋に泊まる観光客との連携も期待している。 ・ 10 月からの車両故障を心配している。 <u>車両メーカーの対応</u> 。 ・ <u>代替えがないバスであれば稼働率・ルート短縮などで工夫を</u> 。 ・ グリーンスローモビリティは車両を含めて挑戦。事例が少ないから課題も多い。見守ってほしい。

→ IKEBUS が運行し、観光地の見どころが増えるなど、評価は高かった。運休・減便により、運行の安定性については指摘が多く、その点での満足度は低かった。

5. 委員長総評

移動システムの大前提は安全性であるが、全国的に新規の技術はリスクを伴う為、例えば台数を増やすことでダイヤの安定性を図ることや、運転頻度を高めることにも繋がると考えられる。また、観光産業政策との連携も今後の課題であり、ガイドブックでの紹介等、工夫した連携で可能性が広がる。本日の議論で改善のための様々な宿題をいただいたので、区はこれらの課題解決に向け具体策を進めていっていただきたい。

6. 結論

- ・ 指標1～3すべてに一定の評価を得られた。一方「事業収支」「満足度」では課題が残る。
- ・ 新たな開発のまちの変化、「利用実態」・「利用者アンケート」のほか、利用していない方を対象とした調査等で、まちの魅力向上のため、改善が必要。
- ・ 今後、本委員会による定期的な事業評価を年に一回程度実施し、ルートや施策の効果を振り返り、「目標」の再設定や「施策の見直し」を検討していく。

7. 池袋副都心システム評価委員について

以下委員名簿の通り。

区分	団体名	所属・役職	委員
学識経験者 (委員長)		東京大学 名誉教授	太田 勝敏
学識経験者 (副委員長)		埼玉大学 准教授	小嶋 文
学識経験者		東京大学 特任准教授	三重野 真代
地域団体	豊島区商店街連合会	総務部 副部長	山岸 啓之
	豊島区観光協会		伊部 知顕
	豊島区高齢者クラブ連合会	会長	外山 克己
	豊島区障害者団体連合会	会長	磯崎 たか子
	男女平等推進センター 運営委員会		堀江 咲智子
サポーター企業	サンシャインシティ プリンスホテル	マーケティング チーフマネジャー	大堀 昌弘
	ホテルメトロポリタン	総支配人	伊藤 茂夫
	アンソレイユ保育園	園長	花房 健
区民及び利用者	区公募委員(バリアフリー推進協議会による)		山田 亜紀子
	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	輸送担当 首席運輸企 画専門官	清家 裕之
豊島区職員	都市整備部長		近藤 正仁